

事務所の日常と最近考えること

法律事務所職員

林 千穂

私が働く法律事務所は、弁護士26名、事務局17名で構成されている。

朝のはじまり

事務所の業務開始は9時。まず事務所の掃除から始まる。9時前から既に仕事を開始している朝型弁護士も数名いる。電話の着信音とOA機器の機械音のまじりあった騒音とともに、事務局全員で本日の外回り業務の報告や所内会議の確認などの打ち合わせを行なう。誰かが、午後法務局に行くとなると、「ならば、どこそこの事項証明取ってきて〜」など合理的な便乗処理もできるし、事務局同士の業務内容もわかる。弁護士の出張先や体調、担当事件の進行、判決内容の報告等、朝の打ち合わせで得る情報はかなりなものである。

さあ、本日の私のお仕事は…。昨日の計画では、午前中に完成予定のパソコン入力のはずだったけれども、本日提訴の書類作成の指示が入る。書証は大量、書証番号を間違えないように。コピー機に頑張ってもらい、なんとか作成終了。もうお昼だ。

昼の様子

三々五々、昼食に繰り出す。お弁当持参者、食事制限中のX先生、カロリーを気にしているY先生…。それぞれメニューの選択に一苦労。質より量を、量より金額を吟味しつつ、私の本日の昼食は、中華丼とラーメンセット。あれ？ 向かいの席にはZ先生が…。飲食店内で所員にばったり遭うこともよくある。新聞、テレビの話題のみならず、所内外のうわさ話、業務の愚痴、午後からの裁判や、近々に判決の出る集団訴訟の見通し

や遊びの計画まで。雑談しながら楽しい昼休みが終わる。午後は計画通りに山積した仕事の処理が果たしてできるだろうか。

午後の戦場

お腹はいっぱい。ちょっと一服などの暇はなく、法廷にでかける弁護士。ぶ厚い書類とともに打ち合わせ室に消える弁護士。そして書類作成に精出し、サラ金からの電話に辟易し、お客様にお茶を運び、所内行方不明弁護士の探査、現場調査の準備をする事務局。夕闇が深くなるまで一心不乱に働く、わが事務所の同胞たち…。

忙しいけれども、充実した日々である。失敗や不安もあるけれども、様々な実務の処理の積み重ねが、事務所を訪れる依頼者からもちこまれるひとつひとつの事件の解決に直結していくことが実感できる。私は事務局の仕事がとても好きだ。

そして思うこと

法律事務所に勤めて12年目になる。後輩もどんどん入ってきている。今までは、吸収していくだけで楽しくて仕方なかったが、これからはそうはいかない。12年も経つとかなり自己流になってしまっていて、時々、反省している。

私は今の事務所と別の事務所に勤務したことがある。仕事を通して思うことは、気づいたことは大抵やった方がいいことが多い。気がついたことが、余計なことかなと思ったら弁護士や先輩に聞けばいいと思う。そのままにして後悔したことの方が断然多い。また自分が気づいたことで、弁護士の業務が円滑に進んだりすると本当に嬉しく思う。そして、日々また楽しく、充実して仕事に取り組める、と、私は考えている。